2013年05月06日 中日新聞 朝刊 27頁

備える 3.11から　第68回　率先避難 上

「共倒れ」防ぐために

逃げながら退避促す

発光ジャケットを着た率先避難者（右端）が拡声器で避難を呼びかけ、住民が高台へ避難する訓練＝三重県尾鷲市港町の尾鷲港で

家族にもかまわず一目散に逃げる「津波てんでん」か、家族や知人を助けるため「共倒れ」を覚悟で危険な沿岸にとどまるか。東日本大震災の現実は、私たちに重い課題を突きつけた。その中で、避難と救助のジレンマを乗り越える「率先避難」という新しい取り組みが各地で進んでいる。（宮崎正嗣、片山健生、那須政治、鈴木智重）

脱二者択一

岸部では「津波てんでんこ」の教訓が言い伝えられている。家族に何度も大津波の被害に遭ってきた東北の沿岸部では、もかまわず一人一人が逃げることが、最も犠牲者を減らすことだと、たどりついた結論だ。

一方で、「てんでんこ」を実践して生き残ったが、「家族を見捨ててしまった」と罪悪感に悩まされる被災者もいた。

「共倒れ」覚悟で他人を助けるか、自分だけでも生き残るか―。そうした二者択一を乗り越える避難方法として、広まってきたのが「率先避難」だ。

教訓を生かす

率先避難とは、ひとりでも多くの人が、結果的に避難を呼びかける側も犠牲になった。

住民は避難を呼びかけながら助かった人たちも、「自分たちは運がいい」という呼びかけに動かなかった人が逃げて良くて生き残ったが、人が逃げ、共倒れになっていてもおかしくなかったと口をそろえる。

「住民のリーダーや消防団員が率先避難を制定。希望者に一部自治体し、住民の自主避難を決めても、日頃からそのうながす」とルールを己負担で防災ラジオを配布し、災害情報のメの意識が浸透していなければ「絵に描いた餅」となる。

鳥羽市は二〇一一年六月に「津波だ！　みんな逃げよう宣言」を市民対象の一斉避難訓練もしており、「自主避難への意識が浸透している。

課題

住民へ浸透 未知数

市民対象の一斉避難訓練もしており、「自主避難への意識が浸透している。

渥美半島先端に位置する田原市堀切校区では、「てんでばらばらに避難すること」を家庭で日頃から話し合っているかどうか、住民にどこまで浸透しているかは未知数。あるかは各家庭で日頃から「それじゃいけない。

自治体、学校、消防団 実践へ

東日本大震災の発生前から力を入れているのが、三重県尾鷲市だ。自主防災組織の一部では、拡声器で声をかけながら逃げる「率先避難者」を決め、「避難しない住民の背中を押す役目を担ってきた」と二〇〇四年の三重県南東沖地震では、率先避難者のいる自主防災会の住民は避難率が高かった。

いち早く取り入れた川原町自主防災会の山西敏徳会長（七〇）は「日頃から隣近所で親密に交流することが大切。いざというとき目配りができ、助ける余裕が生まれるかもしれない」と強調する。

山西さんには悲しい原体験がある。一九四四（昭和十九）年の昭和東南海地震で、尾鷲市では地震や津波で六十五人が死亡。小学六年だった山西さんは、学校の裏山へ避難し助かったが、両親は帰らぬ人となった。そして今この場にいる皆さんは大震災でも生き延びると思うが、子どもや奥さんに周知していくのが役目で寸」と求める場面があった。

結局は、日頃の「備える意識と行動が、かぎとなる。

次回は、20日に掲載します。引き続き、率先避難について考えます。

覚悟

東日本大震災後、率先避難を取り入れる自治体が増えている。そこで、市消防局は「団員がもらうつもりでは、自分の命は守れない」と住民に〝覚悟〟を求めることにもつながっている。

三重県鳥羽市は、津波が短時間で到達する地域で、消防団員も高台避難を優先すると決定。住民には日頃から「大災害時、団員は原則、避難誘導できない」と伝えるようにしている。

市消防本部の担当者は「住民へ事前に説明をしておくことで、団員はちゅうちょせず避難できる」と強調する。

市の担当者は「中央防災会議の推計など、『団員が避難する場合は差し迫った状況』と伝えておけば、緊急性を住民にアピールすることにもなる」と説明。「住民から反発があったとは聞いておらず、理解が得られている。

生き残る

内閣府中央防災会議による南海トラフ地震の想定で、最短二分で津波が到達する静岡市も、すばやい避難が欠かせない。消防団六十五分団のうち沿岸の十一分団は詰め所が浸水する恐れがあり、団員が高台に率先避難した後、救助活動を始める。

消防団の装備品を詰め所に置いておく原則も、一部、変更。来年までに沿岸部の団員十人に救命胴衣を配備し、自宅に置いて備える計画だ。

南海トラフ地震で津波の到達予想が最短十五分の愛知県田原市も、太平洋や三河湾に面した消防団員は率先避難することに。自主防災組織にも率先避難を呼びかける。

防災会議の推計で、避難率が高く、さらに近隣に呼びかけながら逃げれば犠牲者は半分以下となるという。沿岸の住民には「何でも言ってほしい。まず逃げろ」と訴えている」と話す。

今から約十年前、東南海地震が近い将来に再び起きるといわれ始め、悲劇を繰り返さないよう、率先避難に取り組んできた。

行政も率先避難を強化するように。市は二〇一一年度、率先避難する態勢者を各地区で養成しようと、市内七十八の自主防災組織のリーダー主防災組織のリーダー導を図るのが、最も多に拡声器と発光ジャケットを配布。各防災会は定期的に避難訓練を開き、率先避難を実践している。小中学校の防災教育でも「率先避難者たれ」と指導。児童・生徒には災害時、即座に危険を知らせながら避難することを求めている。

三重県鳥羽市の消防団員も、「命を守れ」と判断だ。

今一度、率先避難を強く呼びかけるとの決意だ。

三重県鈴鹿市の消防団も、ポンプ車のマイクで「われわれも避難しますので、皆さんも速やかに高台に逃げて〇一一年度、率先避難する態勢ください」と伝えながら、率先避難する態勢を見せながら誘導する姿を見せながら誘

海地震が近い将来に再び起きるといわれ始め、悲劇を繰り返さないよう、率先避難に取り組んできた。

行政も率先避難を強化するように。市は二〇一一年度、率先避難する態勢者を各地区で養成しようと、市内七十八の自主防災組織のリーダー導を図るのが、最も多に拡声器と発光ジャケットを配布。各防災会は定期的に避難訓練を開き、率先避難を実践している。小中学校の防災教育でも「率先避難者たれ」と指導。児童・生徒には災害時、即座に危険を知らせながら避難することを求めている。

生き残る

内閣府中央防災会議による南海トラフ地震の想定で、最短二分で津波が到達する静岡市も、すばやい避難が欠かせない。消防団六十五分団のうち沿岸の十一分団は詰め所が浸水する恐れがあり、団員が高台に率先避難した後、救助活動を始める。

消防団の装備品を詰め所に置いておく原則も、一部、変更。来年までに沿岸部の団員十人に救命胴衣を配備し、自宅に置いて備える計画だ。

南海トラフ地震で津波の到達予想が最短十五分の愛知県田原市も、太平洋や三河湾に面した消防団員は率先避難することに。自主防災組織にも率先避難を呼びかける。

防災会議の推計で、避難率が高く、さらに近隣に呼びかけながら逃げれば犠牲者は半分以下となるという。沿岸の住民には「何でも言ってほしい。まず逃げろ」と訴えている」と話す。

今一度、率先避難を強く呼びかけるとの決意だ。

三重県鈴鹿市の消防団も、ポンプ車のマイクで「われわれも避難しますので、皆さんも速やかに高台に逃げてください」と伝えながら、率先避難する態勢を見せながら誘

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています